

目次：

- 新アジア代表の紹介 1
- ガンビア訪問記 2
- ウクライナの法改正 4
- グローバル障害者
権利図書館 5
- WASLI が AIIC に入会 6

最新情報はこちらから

[Facebook](#), [Twitter](#)



または

WASLI の HP へ:

www.wasli.org

アジアの新代表を歓迎:

モニカ・ブンジャビ (インド, ISLIA) 及び梅本悦子 (日本, NRASLI)

モニカと悦子が非常に広範囲で言語も文化も多様性があるアジアの代表に決まりました。新代表には4つの大きな目標があります。その目標とは、アジア諸国のネットワーク化、通訳者協会の設立の支援、WASLIの国会員の拡大、そしてアジア地域での通訳者会議の継続です。WASLI 理事会に悦子とモニカを歓迎しましょう。

モニカはインドにおける手話通訳専門職のパイオニアです。彼女はインドでもっとも実践的な1年間の資格プログラムを終え、訓練を積んだ初めての通訳者で、公認の通訳者となりました。モニカはろうの両親から生まれ流暢なインド手話を習得しており、4つの音声言語も堪能です。インドや海外でも長年にわたりフリーの通訳者をしていました。現在はろう者のためのインドールバイリンガルアカデミーのインド手話学科の科長です。彼女はバイリンガルアカデミーの仕事の中で、手話や手話通訳について様アマネ養成プログラム指導を5年以上行ってきています。彼女はまたインド手話通訳者協会 (ISLIA) の会長でもあります。



梅本悦子は優秀な指導者です。滋賀県大津市在住です。

1983年東京都三鷹市登録手話通訳認定試験、その後東京都登録手話通訳認定試験に合格し、現在手話通訳者として活動。1989年に創設された手話通訳士一期合格。2000年から滋賀県及び大津市登録手話通訳者。

2001年から全国手話通訳問題研究会滋賀支部運営委員、副会長を歴任。2010年より一般社団法人全国手話通訳問題研究会執行理事、国際部長。その他、福祉専門学校等で形態別介護技術(手話実技指導を含む)を教えています。



ガンビア共和国訪問報告 2011年12月3日～9日

ゼイン・ヒーマ
(イギリス手話通訳者兼指導員、元 WASLI 事務局長)



写真左から:ヤヒャ、キャディ、ゼイン、ヒーマ

ガンビア共和国は西アフリカに位置しています。アフリカ本土の中で、一番面積の小さな国で、人口はわずか150万人、首都はバンジュール市です。英語が公用語ですが、その他フラニ語、マンディンカ語、ウォロフ語、ジョラ語及びガンビア手話が使われています。ガンビアの歴史や経済状況などについて、いろいろ紹介したいのですが、紙面に限りがあるため、割愛します。ガンビア人の日常生活に関する読み物はたくさんあるので、ぜひご参考ください。(例えば、CIA ワールド・ファクトブックやウィキペディアなど。)とにかく、ガンビアは貧しい国であることを理解してほしいです。

ろう社会と難聴コミュニティも含めて、ガンビアの国民は、世界各国の協会や慈善団体、個人などから様々な援助を受けています。ガンビア手話はガンビアろう社会の使用言語です。ガンビアろう者難聴者協会(GADHOH)は、1993年に設立されました(ホームページ www.gadhoh.com をご覧ください)。GADHOHは様々な推進活動を行っています。もっとも新しい活動は、情報コミュニケーション基盤省(MOICI)と健康社会福祉省(MoHSW)と提携して、テレビ放送や病院などに手話通訳者を派遣する事業です。

今回のガンビア訪問は、2011年のWASLI総会で知り合った手話通訳者ヤヒャ・ジャビさんの招待でした。目的は教育と介護に関する指導を行うためでした。過去3年間の手話通訳指導は、海外ボランティア・サービス(VSO)所属のボランティアのサマー・ロスさんによって維持されてきました。サマーさんは、VSOやガンビアの手話通訳者と一緒に仕事をする前は、イギリスでイギリス手話通訳者訓練を受けていた方です。ですので、今回の訪問には二つの使命がありました。WASLI大使としての訪問と、通訳者教育としての講師です。初日にGADHOH委員会を表敬訪問し、WASLI理事長デブ・ラッセルのかわりにGADHOH会長に挨拶を申し上げました。



GADHOH 理事

ガンビア国内の手話通訳サービスはすべてGADHOHによって運営されています。現在活躍中のグループは、経験豊かな通訳者7名によって構成されています。彼らに2日間の研修を行いました。初日の研修は、教育現場という設定でした。さまざまな実習練習をとおして、ろう学生と教員、そして通訳者との三者関係を検証しました。各通訳者は、さまざまなトピックの短い模擬講義の通訳を行いました。この演習の目的は、通訳時に起こりうる問題を予測し、最適な解決策を検討することです。二日目は医療機関での場面設定でした。

ガンビアのろう社会は大変エネルギーです。私はセント・ジョンろう学校（1983年創立）を訪問し、7才から16才のろう児の教育現場を見学しました。子どもたちは7才までGADHOH管轄の保育園に入園することになっています。このろう学校が素晴らしいと思ったのは、今回お会いした教員の中で、一部が卒業生であったことです。また、進学志望の卒業生が増えているそうです。私はファジャラ技術センターにも訪問しました。そこにはろうの学生が6人いました。美容師の勉強をする人もいれば、ファッションを勉強する人もいました。センターで通訳を務めているバカリ・サンネーさんはGADHOHからの派遣です。

私はガンビア技術訓練校を訪問して学生と活動する通訳者を見学する予定でしたが、時間の都合で行くのを断念しました。あそこでは、入学希望の学生数が通訳の数を遥かに超えているそうです。この問題解決に、GADHOHは追われているようです。実施中の通訳者訓練プログラムに加えて、サマーさんが取りかかっている専門プログラムの優先度も高まっています。

この訪問のもうひとつの楽しい経験は、滞在最終日に参加したろう者クラブでした。GADHOH事務所内で開催され、各方面から集まってきた聴覚障害者の方々は、交流を楽しんだり、食べたり、ガンビア流で時間を共に過ごしていました。参加者の年齢層は様々でしたが、若い方やGADHOHの職員がメインでしたが非常に楽しいひと時を過ごすことができました。

6日間の滞在を終えて、帰国の時がきました。ガンビアはまさに「アフリカの笑顔海岸」でした。そして、大変貧しい国です。手話通訳者の専門技術を高めるための事業を2年間支援すると約束しました。また、「WASLI通訳者教育ガイドライン」のほか、役に立てそうな資料も残してきました。通訳関係の事業提案にも協力させていただきます。

帰国後、地方の手話通訳者がガンビア技術訓練校の今後の手話通訳について会合が行われていると聞きました。しかし、行うべき作業が多く、GADHOHはガンビアの「ろうと難聴社会の完全参加と平等の実現」に向けて、多くのことに取り組んでいます。今回の訪問が、何らかの形でいい刺激を与えることができれば幸いです。ろう社会と手話通訳者の協働がいかに重要なのか、この観点から更なる発展ができればうれしいです。

GADHOHには大変お世話になりました。この数週間でいろいろサポートしてくれたサマー・ロスさんとヤチャ・ジャビさんにお礼を申し上げます。この素晴らしい国をまた訪ねたいと思います。



訪問の最終日、ビーチでジュースと日差しを1時間程度楽しむことができ、大変気持ちよかったです



研修の最終日に出席したガンビアの初代手話通訳者たち

法改正によるウクライナの手話状況の前進

イゴール・ボンダレンコ (WASLI ロシア・コーカサス・中央アジア地域代表)



ウクライナ議会

今まで、ウクライナでは手話の地位は限られたものでしかありませんでした。ウクライナ法律は、手話を「聴覚障害者の教育及びコミュニケーションの手段」（ウクライナ法23条障害者の社会保障）と定めています。当局は手話の発展や推進には関わらず、また手話通訳サービスの提供も行ってきませんでした。

しかし、2011年12月22日、ウクライナ議会から全国の聴覚障害者に新年の贈り物がありました。「障害者の権利に関する諸法の改正」を発表したのです。ウクライナ法律は現在、2009年12月16日に批准した国連障害者権利条約に従っています。この法律は2010年3月16日に発効しました。

国会で定めた今回の法改正によって、ウクライナ手話はより確固とした権利と機会を得ました。この法律に於ける手話の定義も若干異なります。

「23条：聴覚障害者の言語としての手話は、コミュニケーション及び教育の手段であり、国家はこれを保護する。

各自治体は

- 手話の普及に協力し、聴覚障害者の言語的独自性を推進する
- 手話の保存、学習、全面的な発展を保証し、教育、訓練、指導、コミュニケーション、生産などの手段としてこれを用いる
- 公的機関や施設、社会保護機関、法律団体、消防及び保安機関、災害レスキュー隊、医療機関、教育機関などに於ける聴覚障害者のコミュニケーション支援をする
- 手話を使用するウクライナ国内の聴覚障害者を対象とする手話通訳サービスを推進する
- 手話を科学研究の対象として環境を整備する
- 公的場面に於ける手話の使用を推進すること

各放送局（運営会社や所属機関に関わらず）は、ウクライナ内閣府による公的発表や映画、ビデオ、一般放送、テレビ番組に於ける字幕または手話通訳を付与すること。

このような変化は、ウクライナの聴覚障害者の生活をどれほど楽にできるのか、時間がすべてを証明してくれるでしょう。我々が確信を持って言えるのは、ウクライナは、例外なく、本当の平等と寛容な市民社会への発展に向けて、既に大きな一歩を踏み出したということです。

知的情報の格差を縮めてくれる 「グローバル障害者権利図書館」



疑問を持った時、あなたはどのぐらいの時間を費やしてその答えを見つけ出すでしょうか。

インターネットをアクセスできる環境なら、すぐにもパソコンやスマホをいじって、ほんの数分でグーグルから答えを見つけ出せるでしょう。この点については疑問の余地はないでしょう。しかし、殆どの発展途上国の障害者権利活動家や政策立案者はインターネットをアクセスできるような環境には恵まれていません。インターネットがアクセスできても、速度が遅かったり、費用がかかったり、その上、信頼できるような情報が必ずしも得られるとは限りません。知的情報面の格差を埋めるために、WASLIが率先して始めた事業は、この「グローバル障害者権利図書館」(GDRL)プロジェクトです。

GDRL プロジェクトとは、アメリカ国際障害者協議会と、USAID から補助金を受けているアイオワ大学のワイダーネット・プロジェクトとの協同運営事業です。GDRL は大手電子図書サイト e グラナリーの附属図書館でもあります。e グラナリー電子図書サイトは、ユーザーのネットアクセスや、文書、ビデオなどの閲覧をネット通信以外の手段で配信しています。2012 年現在、オフライン・サイトは 21 ヶ所 39 サイト以上と繋がっています。障害者ユーザーはオフライン・サイトもオンライン・サイトも自由にアクセスできます。オンライン・サイトは 2011 年 6 月からの開設です。URL は <http://gdrl.org>

障害者権利団体や政策考案者たちが、GDRLのオフライン・サイトから役に立つ情報を入手できたら、WASLIとしても誇りに思います。発展途上国で生活している障害者は数千人います。彼らの生活に大きな改善をもたらすこの画期的なプロジェクトに興味を持つ方は、以下のサイトをご覧ください。

<http://www.usicd.org/index.cfm/global-disability-rights-library>

GDRLのオフライン電子版の無料配信に興味のある発展途上国の関連団体、以下のサイトで申し込んでください。 <http://www.widernet.org/digitallibrary/GDRLSiteSelection/>.

GDRLに関するご意見、お問合せ、ご協力など、お気軽にメールください。

GDRL@USICD.org



AIIC が手話通訳者の入会を承諾

ファン・デュルエッタ(アルゼンチンろう通訳者)

2012年1月10日、アルゼンチンの首都ブエノスアイレス市で開催するAIIC(国際カンファレンス通訳協会)会議「手話ネットワーク」に出席してきました。開催時間が長いとは言えないこの会議で、プレゼンの時間を15分間もいただきました。私はWASLIの活動やほかの団体との連携について、紹介しました。例えばヨーロッパ手話通訳者フォーラム(efsl)や世界ろう連盟(WFD)、国連、聴覚障害者の人権問題、国連の障害者権利条約、ろう通訳者問題などについて話しました。そして、会場から、手話や(国際会議用語としての)国際手話、通訳訓練などに関する質問をいただきました。私は、AIICとWASLIが協力し、通訳養成事業を全世界に広めることがとても重要だと伝えました。また、AIICの方が、手話通訳者に関する問合せをときどき受けるが、正確な回答を与えるのに苦労していると教えてくれました。WASLIなら、このような情報や知識が豊富にあるので、すぐ対応できると答えました。

会議の結果、AIIC理事会は世界会議対応の手話通訳者を会員として受け入れると決めました。今後の国際会議では、手話通訳者は一般の言語通訳者と同様な扱いになるということです。手話通訳者もAIICの個人会員として登録し、投票権も持てるようになります。AIICの会議に出席できて、本当によかったと思います。

AIICから国際会議や基調講演、晩餐会への招待も受けました。基調講演の発表者はアルゼンチン活字アカデミー理事ペドロ・ルイス・バルシア博士でした。彼は言語学者でもあり、研究者、大学教授、評論家なども務めていらっしゃいます。長い会議にはならないと最初から言われていたにも関わらず、この日は大変長い一日になってしまいました。けれども、とにかく全体としては大変有益かつ充実な経験でした。



(上) AIIC 会議に出席したファン・デュルエッタ。
 (右上) シュアン(右端)と AIIC 会議で出会った方々
 (右下) AIIC 基調講演の発表者ペドロ・ルイス・バルシア博士

もっと知りたい？

WASLI の公式サイトは最新情報を随時更新しています

最新のプレスリリースには、世界ろう連盟(WFD)と北朝鮮の障害者団体と交わした歴史的な協議書も掲載してあります。



世界ろう連盟が北朝鮮の障害者団体とフィンランドで協議書を交わした

身近なニュースを世界に発信しましょう

あなたの地域の最新動向やお知らせ、記事、写真などを WASLI ニュースレターに投稿しましょう。

Eメールの宛先は: newsletter@wasli.org

重要事項

この会報の記事内容がすべて世界手話通訳者協会の考えを表わしているとは限りません。WASLI 会報は、編者が WASLI 理事及び外部からの寄稿者と共に作成しています。WASLI は情報内容の信頼性を保つよう努めています。会報に掲載されているすべての情報を編集する権限は WASLI にあります。掲載内容の正確性や個人意見に関しては、WASLI は一切責任を負いません。出典を明確にいただければ、掲載内容の転載も認めます。WASLI の公式写真の使用許可申請及びメールアドレスの変更申請は secretary@wasli.org まで。

WASLI 理事会

役員:デブ・ラッセル (会長);ホセ・ルイス・プリエバ・パディラ (副会長);アウォイ・パトリック・マイケル (事務局);スーザン・エマーソン (会計)

地域代表: シーナ・ウォルターズ (南洋州・オセアニア); サミュエル・ベグミサ (アフリカ); モニカ・プンジャビ、梅本悦子 (アジア); セルマン・ホティ (バルカン); ホセ・エドニルソン Jr. (ラテンアメリカ); ナイジェル・ハワード (北アメリカ); イゴール・ボンダレンコ (ロシア・コーカサス・中央アジア); (ヨーロッパ) 調整中

WASLI ボランティア

WASLI ホームページ管理者:ディビッド・ウォルフエンデン

WASLI 会員管理:ロビン・テムコ

WASLI 翻訳コーディネーター: ラファエル・トレビーノ(他ボランティア)

会報編集:アンジェラ・マレイ

会報編集補助: ジョージ・メイジャー

会報校正:パトリック・ガラッソ、アラン・ウェンツ